



例会風景

る確率も分からない状態であった現在の我が家の「ミー」ちゃんがモデルです。 朝方、陽が差す居間の壁際にまぶしそうな眼で正座している「ミー」ちゃんを見て、「オッ！ 決まってるねミーちゃん」と言つてとつきにコンデジで

撮った一枚です。 今回の作品からも言える事ですが、「被写体は案外近くにある」という事です。今後も、肩肘張らずに楽しく写真活動を永く続けていきたいと思ひます。

### ▲ 支部探訪 | 浦河

支部長 米倉 祥子

## 五十年を超える歴史に 思いを馳せて

浦河支部は創設して五十一年以上続いています。当時の会員が高齢で正確なことはわかりませんが、昭和三十五年頃、写真好きの大先輩が自宅で例会を開き、活動が始まったそうです。その後、仲間が仲間を呼び会員が少しずつ

つ増え、自宅では会員が収まりきれなく、会館利用に切り替えて、例会を毎月一回開いていたそうです。平日の夜にも関わらず、各自が仕事を終えた後、自信作を手にドキドキしながらお互いの作品を見せ合い、またアドバイスを受け刺激し合つてきたと聞きます。当時はモノクロ作品も多く、自宅に暗室のある先輩方もいて指導を受け、技術を引き継ぎ、朝まで気がつかない程に熱く教え教わりあつたそうです。結果、道展入賞者が年々続きました。

## ■ 少数精鋭！ 仲間に恵まれて

現在の会員数は少なくなりましたが六名、支部会費は月千円で会場費、撮影会、懇親会等に使用しております。例会は毎月一回、第一日曜日の夜に作品の発表・プリント品評・デジタル撮影技術の勉強を解りやすく行つております。

少人数ですが道展審査会員の田嶋英夫氏、駒井千恵子氏と熟知した良き指導者を筆頭に季節の撮影を重ねており、仲間一同、お互いに敬い、無理なく楽しんで活動を大切にしてお



親睦撮影会(ウトナイ湖)

ります。

私は平成十八年より支部長を引き継ぎました。自身の環境も結婚、出産、育児と年々変わり驚く次第です。それでも趣味も子育ても皆様のお気遣いを受けて両方を楽しく続けることができています。母親としましては大変有り難く、写真実力も不十分な私ですが、先輩方がこの小さな町で立ち上げられた熱い気持ちを今後も繋げていき、仲間達とこれからも感動を発見していきたいと思つております。

私共の浦河支部も北海道写真協会の大きな力添えを頂きながら写真道展を励みに頑張っております。入選も毎回あり、会員それぞれの写真の上達を願い、頑張っています。各支部の皆様も頑張つていらつしやるのが定期会報から伝わっております。今後とも皆様何とぞよろしくご指導をお願い致します。

## 写真展を終えて

### ■ 大崎 和男 写真展 「鉄路の詩」

会期 二〇二三年三月十日(十八日) 会場 鹿追町民ホール

鹿追町文化連盟から依頼があり、写真展「鉄路の詩」を開催、おかげさまで盛況のうちに終つた。

どでかい真つ黒な鉄の塊に魅了され、撮り続けた五十五年の集大成、八十九点の写真(全紙、半切)に併せ、機関士時代の事柄を綴つた詩や俳句三十三編を展示した大きな展覧会になった。

「煙の臭いがする、カマの熱が伝わってくる、排気音が聞えてくる」と語る人から、人間くさいSLの勇姿に遠い昔に思いを馳せ感涙にむせぶ人までさまざまだが、少しでも感動を与えることができた！ この時こそ至福の境地である。個展を終え、沢山の出会いが心の糧になり新たな創作意欲が湧いてきた。



(道新帯広報道部 浜本氏提供)